高分子学会ユニチカ修斉会助成報告書

2022 年　9 月 25 日

公益社団法人高分子学会
会長　　伊藤　耕三　殿

国際会議等の名称 （日・英）		ゲルシンポジウム 2022・Gel symposium 2022
主催団体の名称 （日・英）		ゲルシンポジウム 2022 組織委員会・Organizing committee of Gel symposium 2022
開催期間		2022 年　9 月　2 日（金）～2022 年　　9 月　4 日（日）
会　　場		星野リゾート　トマム　北海道勇払郡占冠村中トマム
主　　題 （主題がある場合は記入）		
責任者	（フリガナ） 氏　　名	カクゴ　アキラ 角五　　彰
	所属機関・職名	北海道大学大学院理学研究院化学部門・准教授
参加者数		計　　89 名（(国内)　　78 名、(海外)　　11 名） （申請時の予定参加者数（国内）　　90 名、(海外)　　10 名）
参加国数		6 ケ国（日本を含む）
助成金額		30 万円

1. 実施事業の目的

本シンポジウムでは、発足 30 年目を迎えた高分子ゲル研究会が推進するゲルの科学に関する研究の持続的な発展に向けて、基礎から応用、実用化、製品化まで幅広い分野から国内外の研究者を集め、これまでのゲル研究を俯瞰・総括するとともに、今後 10 年のゲル研究の方向性を深く踏み込んで議論し、その展望を得ることを目的とする。このような趣旨は、過去 12 回に渡り開催されてきた各論的なトピックスを対象としたシンポジウムとは異なる。具体的には、１）ゲル研究の創成期に立ち会った研究者から、現在、活発に活動する若手研究者まで、老若男女、国内外問わず一線級の研究者を招集し、過去から現在までシームレスにゲル研究を総括するとともに、２）新たな試みとして未来を担う若手研究員へのエンカレッジを目的とするランチョンセミナーを企画し、会場の参加者も巻き込みながら、コロナ禍においても永続的に発展可能なゲル研究について討論した。また十分な議論の場を設けるため、感染拡大に備えた準備を行いながら 2 泊 3 日の対面ならびにオンラインのハイブリット形式で~~の~~シンポジウムを開催した。

2. 実施事業の内容と成果（主たる招待講演者、若手研究者や学生の交流、女性研究者キャリアアップのための取組みの成果、高分子学会会員への寄与など）

国際的に俯瞰して当該分野の研究は我が国が牽引しており、本シンポジウムの開催により更にリーダーシップを発揮することで、国内のゲル研究レベルの高さを世界に向け発信できただでなく、研究水準の世界的な底上げにもつながった。さらに高分子ゲルは、今後我々が直面する環境問題や福祉をはじめとする社会問題を解決するキーマテリアルとしても期待されるが、本シンポジウムの開催がその重要な契機となったものと思われる。さらに、このような問題意識の共有は、若い世代の研究の発展、延いては、今後のゲル研究の発展においても重要な意味を持つと期待される。

若手研究者や学生の交流としては、当研究分野をリードしてきた先生を講師として招待し、研究者としての心構えや目指すべき研究の方向性の指南、研究成果をアウトプットする具体的な教育を設けた。その上でポスターセッションを設けることで実践的なアウトプットの場が提供できたものと思われる。

さらに、女性研究者キャリアアップのための取組みとしては、企業とアカデミアの両方に軸足を置いた研究開発に取り組む女性研究者などをモデレーターなどとして登壇してもらい、幅広いキャリアパスのあり方に関して議論した。